

Q

AutoCAD データを取り込んで CADSUPER で編集し、再度 AutoCAD データで返送する場合

A

以下に詳細な設定を交えてご紹介します。

- 読み込む場合には、「変換編 DXF・DWG → CADSUPER」の「AutoCAD データを取り込んで CADSUPER で作業する場合」に記載の通りの設定で読み込みます。
- ビューポートで縮尺を表現している図面では、レイヤが縮尺別に分類されますが、これは後でまとめることができます。
- AutoCAD データを出力する際も、お勧めは、DWG_ByLayer を使用し（背景色で白か黒を選ぶ）、必要最低限の設定で変換を行います。
- 読み込む時と同様、レイヤ名称等受け取ったものはそのまま使用し、そのまま出力することにします。
- 元の AutoCAD データにレイアウトとビューポートで縮尺表現されている場合は、縮尺をビューポートに適用します。
- 寸法線は、詳細な形状重視（AC 形状）にし、文字も TrueType 最適化で変換します。
- 出力フォーマットバージョンは、基本的に要求される相手先に合わせますが、R13J 以下に設定すると、編集できないハッチングが渡ったり、楕円やスプラインがポリライン化されたりしますので、R13J 以下はお勧めできません。

以下、詳細な設定を交えてご紹介します。

【モード設定/フォント設定】



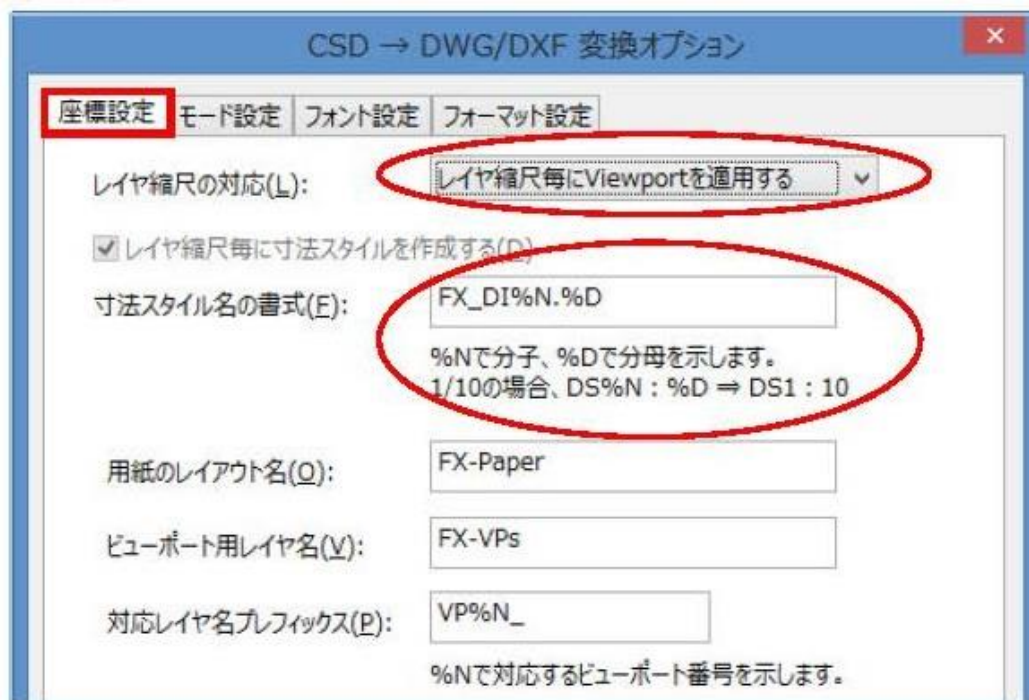
- 寸法線変換は、「寸法に変換（AC 形状）」を選び、「詳細な寸法線形状を再現する」のチェックを ON にします。最も再現性の高い寸法線変換方法となります。
- 文字は、「TrueType フォント最適化」を選択します。

【フォーマット設定】



- 出力バージョンは、データを送る相手先に合わせますが、データの整合性を考えて、「R13」以下は推奨されません。

【 座標設定 】



- 読み込み時に振り分けられたレイヤ縮尺は、再度ビューポートへ戻します。この場合、寸法スタイルは自動的に縮尺毎に寸法スタイルを作成するよう設定されます。
スタイル名には、縮尺値（分子、分母）を含めることができます。

【 テンプレート設定 】



- また、用紙サイズに合わせたレイアウトを設定したテンプレートを指定することで、確実な図面レイアウトを持った AutoCAD データに変換できます。

以上